
優羽の小部屋

酒井 優羽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

優羽の小部屋

【Nコード】

N5663J

【作者名】

酒井 優羽

【あらすじ】

はじめまして。酒井 優羽といいます。同じサイトに小説などを投稿している石金 舞優ちゃんから紹介されてはじめました。主に詩を中心に書くので、みなさんに見ていただいて何か感じ取ってもらえれば幸いです。

空をみあげて

今日もこの空を見上げる私 あなたも同じ空をみているのでしょ
うか

それはきつと無いのでしょうか 私達の運命のように
でも私の胸の輝きがあなたを求めた いつも隣にいてくれるように
なのにとどうしても認めたくないの どうすればいい？この思い
たくさんの感情が溢れ出す 君のいるほうへ

何度もあの時を思い出す 消えて欲しいと願ったあの時を・・・
あなたは知らない 涙したあの夜を
もしもう一度願うならあなたは叶えてくれますか？
でもその願いはきつと叶わない

だからこの空も同じ色に染められることは無い 永遠とわに

傷ついた心を持つ私 それはまるで鎖につながれているようで
癒してくれそうにもない優しいあなたに解いてもらうのを待っている
だから恋しいから願っていいですか？ 私の隣で笑ってくれるよ
うに

恋は残酷ね いつもキレイな矛盾で溢れてる
止まっていたココロが動きだす 君のいるほうへ

何度もあの時を思い出す 消えて欲しいと願ったあの時を・・・
あなたは知らない 涙したあの夜を
もし思いが通い合うのなら あなたは抱きしめてくれますか？
でもその願いはきつと叶わない
だからこの空も同じ色に染められることはない 永遠に

一度「さよなら」したのにそれが何となく嫌で

でも もうあの思いをしたくないと思うから
なのに認めてしまう思い それなら覚めないゆめを・・・

空をみあげて（後書き）

この詩は、私の昔の恋をもとにして書きました。これからもたくさん
の詩（できれば小説も）を投稿していくつもりなのでよろしくお
願いします。

カナシミの世界

月光に照らされて目の前が揺れる

私はちゃんと立っている？ 確かめるのが非道く怖い

窓を開けると星が瞬いていて平和だと思える

けれど 何処かで悪魔が足を忍ばせている

だから私達は願いながら叫ぶ 強く 強く

幸せ奪わないで これ以上息を詰まらせないで

人はなぜ誤^{あやま}ちを繰り返す？ そうと知っていながら

歪んだ世界 嘆きの涙

その中に一筋の幸福はある？

見つければいい 神に頼るまえに

だから私は自分を 貴方を そしてこの世界を信じる

遠くから聞こえてくる笑い声に耳をすませ明るい世界へ逃げ込む

嫌でも頭の中に響く残酷な知らせ 悲しみと苦しみのパレード

ガラクタでもいいから何かにしがみついていた

人間は弱い生き物だとその時実感する

お願い 私を連れ去って

人はなぜ誤ちを繰り返す？ そうとわかっておきながら

傷つく世界 止まらない涙

貴方は見えている？

見えていればいい 私が教えるまえに

だから私は自分を 貴方を そしてこの世界を信じる

善意と悪意が混ざり合う現実　逃げ場は何処にあるの？
いつか終わるの？
私達が本当に笑える日が近付いていると思いたい

人はなぜ誤ちを繰り返す？　そう知っていながら
歪んだ世界　嘆きの涙
その中に一筋の幸福はある？
見つければいい　神に頼るまえに
だから私は自分を　貴方を　そしてこの世界を信じる

貴方思う

外を見れば雨が降り　　まるで今の私の様
滑る滴に身を委ね
私も消えてしまいたいと思った

頬を流れる冷たい涙
今も思い出すは貴方の横顔
夢と現うつを行き来し　　私ずっと貴方思う

水面みなもに映る私の姿　　隣の貴方はもういない
突き付けられる今に
自分の体壊れそうだった

頬を流れる冷たい涙
今も思い出すは貴方の笑顔
この世から消えてしまっても　　私ずっと貴方思う

雨と涙　混ざりあつて・・・

頬を流れる冷たい涙
その時わかる貴方のいた温度
今も一番大切なモノは貴方なのに

頬を流れる冷たい涙
今も思い出すは貴方の横顔
夢と現を行き来し　　私ずっと貴方思う

滑る滴に身を委ね・・・

未来（サキ）へ

この一瞬の先にどんな未来あるの？

手に取ることができたら上出来

掴みたい物手の平から零れ落ちるのは嫌

私だって同じ　そんなの望んじやいない

だから人は手を伸ばす　彷徨いながら

どんなに邪魔しようが光で貫いて

近付いてみせるよ今

手に入りたい物　ちゃんとあるから人は前へ進める

未来へ

ふと気がついたらビルの間に夕日が沈んで闇が広がっていた

それぞれ意味があるとしたら生まれてきた理由もわかるかもしれない

「あきらめない」「掴んでみせる」強い覚悟が

貴方みたいにアタシを支えて

どんなに邪魔しようが光で貫いて

近付いてみせるよ今

両手で握りしめたいから人は前へ進める

未来へ

大事なモノしっかり持っているから　大丈夫見失わない

目の前に幾つもの道が広がったとしても信じて　自分を

歩きだそうか

My dream

未来へ

さみしがりんぼ（前書き）

これは読んでもらえるとわかるんですが恋の歌です。こんなこと
思ったことはある人もいるんじゃないかと思います。

さみしがりんぼ

学校や帰り道

いつまでも一緒にいたいという願望

アタシのココロの中にあって

離れないで 側にいて そう言えたらどんなにHAPPYだろう

でもそれって一方的？

気付いて欲しい 本当の気持ち

だからアタシは少し甘えて背伸びするくらいが丁度いい

甘えるとか 手をつなぐとか 全部ドキドキして

にやけてしまいそうで だから恥ずかしくて

でも離れると泣いちゃいそうで

アタシ 『甘えんぼ』じゃなくて『さみしがりんぼ』

一瞬でも一分でも永く

いつまでも一緒にいたいという願望

今日もアタシの1番です

時々ケン力をする時もあるかも

だけど あとからすごく笑えてきて

そんな風に2人の間 時が流れていって

育ってゆく思い 花のように

これからもずっと隣にいて

甘えるとか 手をつなぐとか 少し慣れてきたけれど

だけど嬉しくて だから恥ずかしくて

でも離れると泣いちゃいそうで

アタシ 『甘えんぼ』じゃなくて『さみしがりんぼ』

花咲く頃に・・・（前書き）

この詩には今の自分の思いをぜんぶ詰め込みました。

中学1年の冬から中学をもう卒業する今、約2年ちよつと、そして今も私は恋をしています。K先輩は、同じ陸上部の先輩で生徒会長もしておられた方でした。

一つ上なので今は高1ですね。だから、先輩が卒業してから1回も会ってないし、告白もできていません。

でも、今度（たぶん）会える機会ができたのでちゃんと思いを伝えてこようと思います。

そんなイマの私の恋を詩にしました。

花咲く頃に・・・

ありふれた毎日のなか貴方に出会ったの

何をしているわてでもないのに　つい眺めてしまうよ

この気持ちも　過ぎてゆく時間も私には全て大事すぎて
貴方に恋してるんだ

そう　気付いても

歩き出したものは止められはしない

遠く離れていても

私　ずっと貴方が好きで

花咲く季節になった今でも

ずっと思い続けていた

だから言うよ

貴方が好きだったこと

言おうと思っていたことが言えなかった時ほど悔しくて

そんな状況^{ふう}になるならちゃんと言えばよかった

苦しいという気持ちも　涙の温度も全部はじめて知ったんだ

あの時伝えていれば良かった

そう思っても

貴方のいる場所が遠すぎて

どんなに時間がたっても

私　ずっと貴方が好きで

また花咲く頃になっても

ずっと忘れはしなかった

だから言うよ

貴方が好きだったこと

朝が来て 夜が来て 毎日その繰り返し
そのぶん会えた時の喜びは
とても大きいハズだから

L o v e f o r e v e r . . .

遠く離れていても

私 ずっと貴方が好きで

花咲く季節になった今でも

ずっと思い続けていた

だから言うよ

貴方が好きだってこと

今度会った時に言うよ

貴方が好きだってこと

流れ星（前書き）

久しぶりの投稿。またまた恋の歌です。作りやすいんですね。
・
もう少しで、前回言っていた先輩に会えます。

流れ星

過ぎ行く雲眺めながら心のパズルうめてゆく
気付いてた？ 君がくれた時間が私を形作るって
ほら 見えるでしょう？ 幸せの色をした光の粒
夜空から舞い落ちてくる

私は一人じゃない
だって君を見つけたから
きっと たどりつく場所に行けたから
もう怖くなんかない
星がまたたく夜空 ああ輝きのように
私 君と一緒にいられる？
大丈夫 ここはかえがえない場所

隣に座る君の肩に寄りかかり空にある月を二人で眺めた
よみがえる 君がくれた『今』や思い出が 私の心の隙間をう
める
空駆けるあの星にした願い
ずっと側にいたい——・・・

君は一人じゃない
だって私を見つけたから
きっと 同じ場所を探してた
だから今こうして一緒にいる
星がまたたく夜空 ああ流れ星のように
私 君と一緒にいられたらいい
大丈夫 君ならば

祈り（前書き）

これは、ふと賛美歌っぽいモノが書きたいなあと思い作ったものです。教会とかにあるパイプオルガン、ナマで聴いてみたいですね。いつか聴きに行きたいなあ・・・。

祈り

暖かな光がこの地を照らす
夜明けと共に闇を消し去ってくれた
だけど人の心の闇を消すことは難しい
この世で一番

神よ　どうか救いたまえ
どうか私達に優しい手を
荒ぶる魂　静めたまえ
そして　あなたに幸あれ
私も祈りましょう

そして私達は救われるでしょう・・・

どんな絶望の中にいても　あなたは手をさしのべてくれた
私達は助け合いながら今を生きている
天使と悪魔が争う中　生まれてきた私達だから
助かる道を探している

神よ　どうか救いたまえ
愚かな私達を助けてください
凍える空　晴れたまえ
そして　あなたに幸あれ
私も祈りましょう

そして私達は救われるでしょう・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5663j/>

優羽の小部屋

2010年10月9日23時02分発行